

ビオトープだより第13号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. いきものガンバレ

本部事務局

原田鎮郎氏の個展「いきものガンバレ 2022」が、2022年1月13日から23日まで、東京都文京区のギャラリー・フィールドで開催されました。多くの方々が訪れ、作品の前で、いろいろな問題について考えながら、ホッキョクグマたちの表情に見入っておられました。

※環境システム研究所代表の原田鎮郎氏には、これまで「ビオトープフォーラム in 富山 2015」でご講演、協会誌「ビオトープNo.35」特別寄稿をいただき、2021年3・6月「東北復興に想いを寄せて・二人展」(協会後援) (「ビオトープNo.48」p.12-13 報告) では、鉄道画家の松本忠氏とともに素晴らしい作品展を開催されました。

以下原田氏のコメント

「WWFの最新統計では、絶滅危惧種は28,338種となっている。その増加の主な原因は、人類の活動による自然環境破壊による地球環境の温暖化、劇症化によるものである。

ここ数年は、いきものガンバレのテーマで、絶滅危惧種の保護活動につながる制作を行っている。今回は、地球温暖化の環境変化の影響を受けているホッキョクグマを取り上げた。

この作品展を見ていただき、一人でも多くの方に、地球環境を見直すきっかけになれば、と思う。」

※ギャラリー・フィールド <https://galleryfield.com/>



写真上: 右から3番目が原田氏

写真右: 展示の様子

次のページに作品の一部を掲載





作品「Help me!」



作品「地球温暖化」

参考資料

副会長・主席 BA 野澤 日出夫

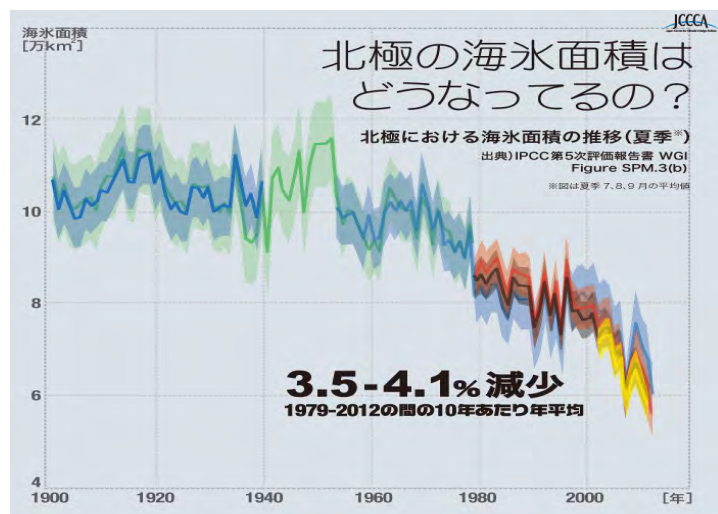
「北極における海水面積の推移」

出典) IPCC 第5次評価報告書

このグラフは北極域の海水面積の7,8,9月(夏季)平均値の推移を表しています。

特に1979~2012年の期間に北極域の年平均海水面積は減少し、その減少率は10年あたり3.5~4.1%の範囲にある可能性が非常に高いとしています。

海水はその下の海水温度を一定に保ち、北極圏の気温も安定させて来たことから、海水面が広がることは、北極圏の海水温度が上昇する事を意味していて、地球温暖化を加速させることとなります。



2. SDGs推進の中で「生物多様性」について考える 副会長・主席 BA 野澤 日出夫

下図は協会誌にときおり登場するSDGsケーキモデル。

《生物圏・生物多様性・持続可能な食糧》



「生物多様性」…「SDGs⑥⑬⑭⑮生物圏」

SDGsの根幹である「生物圏」は、太陽と空気と水がある限り、持続的に生態系が維持され、我々もそのサービスを将来にわたり得て行くことが出来ることになっています。しかし、この生物圏のバランスを無視した産業革命以来の社会活動・経済優先の施策は、特にこの半世紀の間に地球環境を大きく変化させ、昨年には地球上の人工物総量が森林を含めた自然物総量を上回りました。100年前には、3%に過ぎなかった人工物が、特に近年の人口急増もあり急上昇し続けています。

人口の爆発的急増は生態系サービスでの食糧確保は不可能となり、集約的な農業や大規模畜産業によってのみ食糧を確保していて、水産業においても自然の魚介類では需要を満たさない状況になりつつあり、早晚人工増殖・養殖のみに頼ることになります。

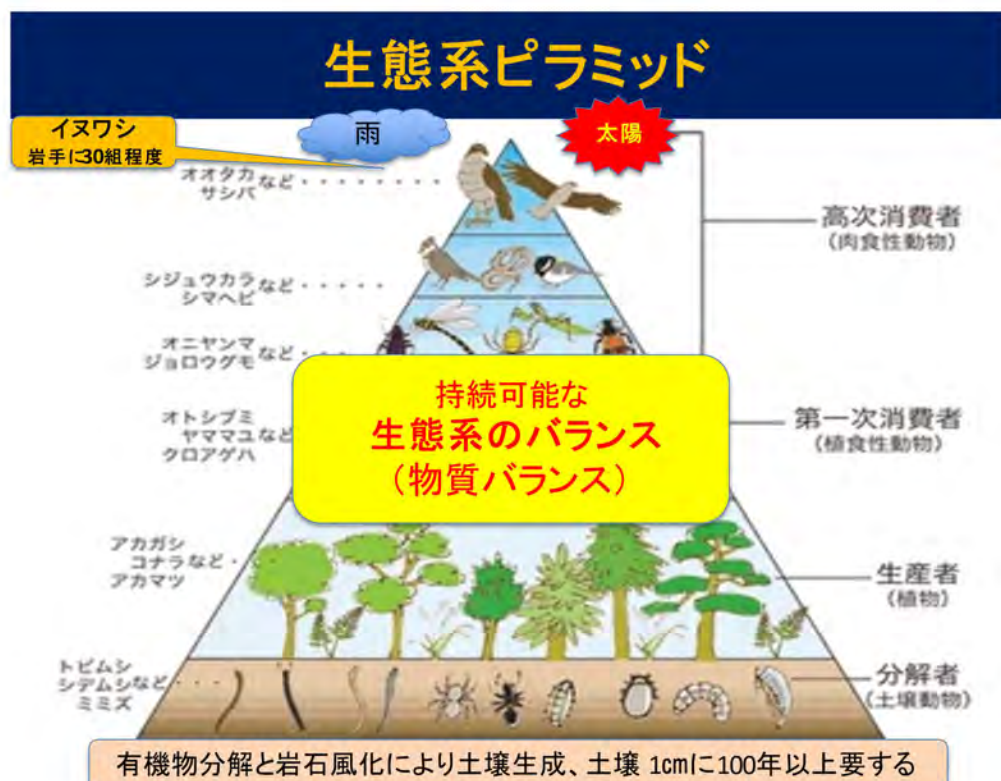
近年のCO₂上昇により気候変化が顕著となり、異常な降雨による洪水や、早魃に転じて砂漠化する地域もあり、海洋に於いても海水温上昇による海流や生物の生息域変化も起こり始め、農業・畜産業・水産業ともに大きな打撃となり将来の食糧危機が危惧されます。

化石エネルギーを再生可能エネルギーに短期間に変換する事は必須であります。

- ①森林面積減少を食い止めること。(緑のダム)
- ②失われた緑を復元し生態系を取り戻すこと。(ビオトープ)
- ③生態系に影響を与えない手段で再生可能エネルギーを創り出すこと。

《食糧・環境・・生物多様性・・持続可能な生態系》

持続可能で多様な生態系については、ご存知の下図生態系ピラミッドとして理解されます。



豊田市役所農林課矢作川流域模式図より

生態系は、「分解者」「生産者」「消費者」が互いに支えあう形で構成されていて、持続可能な物質循環となっています。全ての有機物（動植物の死骸を含め）は、バクテリアを含む生物によって消費され分解して豊かな土壌を形成します。気候風土により土壌が1 cm 生成されるのに 100 年から 300 年の歳月が必要であり、この表土により豊かな植物相が形成され、その一部によって上位の消費者を育むこととなります。

この一連の自然な営みを加速させる活動が私たちのビオトープづくりであります。地球温暖化による集中豪雨や渇水による砂漠化などにより、この3者のバランスが取れない状況も起こりつつあり各地で危機が生じています。

岩手県北上山地は、広大な二次的自然域が広がり、ピラミッドの頂点として約 30 ペアのイヌワシが棲息しています。北上山脈の多くは安定した風力が得られるため、FIT 電力としての風力発電が乱立しています。この風車の巨大なブレード先端の回転速度は新幹線並みのため、モーショントラップ現象で鳥の目には見えにくく多くの鳥類の衝突事故が発生しています（バードストライク）。発表されるバードストライク数は少なく、その実態は死骸をキツネ・タヌキなどが持ち去るため正確な把握は不可能なのです。また、山頂への設置工事の為に山林が伐開され、工事用道路によりエコトーンが壊されるなど貴重な生態系が損じられていて、ここでも経済優先がまかり通っていて規制が必要となっています。